

# 3地区複合再編案B

資料2-13

成木7丁目→施設一体型小中一貫校②  
約30分(徒歩+公共交通)

富岡1丁目→施設一体型小中一貫校②  
約30分(徒歩+公共交通)

二俣尾5丁目→施設一体型小中一貫校①  
約70分(徒歩+公共交通)

塩船→施設一体型小中一貫校②  
約30分(徒歩・約2.3km)

御岳山→施設一体型小中一貫校①  
約70分(徒歩+公共交通)

施設一体型小中一貫校②

施設一体型小中一貫校①

【再編後の学校規模】			
		2059年	
施設一体型 小中一貫校①	児童数	432	
	学級数	18	
	生徒数	289	
	学級数	12	
施設一体型 小中一貫校②	児童数	405	
	学級数	18	
	生徒数	190	
	学級数	9	

【再編における効果】			
項目	適正規模	適正配置	小中一貫教育
効果	◎	×	◎
内容	2059年まで望ましい規模を維持できる	御岳山等、一部地域にて通学時間が長時間となる。	施設一体型小中一貫校2校となる。

- 【再編案の考え方】
- ・第一小学校、吹上小学校、第六小学校、第七小学校、成木小学校、第一中学校、吹上中学校、西中学校、第六中学校、第七中学校の規模適正化を図る。
  - ・小中一貫教育推進のため、小学校からの進学先の統一を行う。
  - ・西部地区・中央地区、北部地区合わせて施設一体型小中一貫校2校とする。
- 【再編方法】
- ① 第五小学校、第六小学校、第一中学校および西中学校を再編し、第一小学校の位置に施設一体型小中一貫校①を設置する。(2036年までに)
- ② 吹上小学校、第七小学校、成木小学校、吹上中学校、第六中学校および第七中学校を再編し、第四小学校の位置に施設一体型小中一貫校②を設置する。(2040年までに)
- ・現在、霞台中学校へ進学する第四小学校区を施設一体型小中一貫校②に変更する。

※色付きゾーンは小学校区を、黒枠は中学校区を表す。